

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	04 実施事業名：中国・浙江大学スプリングプログラム
代表者名	国際高等教育院 韓立友、河合淳子、家本太郎 学際融合教育研究推進センター 西島薫
事業概要 (600字程度)	<p>2010年に試行プログラムが行われて以来、今年で11年目となる。2019年はコロナウイルス蔓延により、企画されていたプログラムが中止になったが、2020年は完全オンラインでプログラムが行われた。</p> <p>本プログラムの目的は、(1)留学先の文化、社会、習慣に直接触れ、(2)語学学習への意欲を喚起し、(3)留学先の同年代の学生たちと交流を深めることが本プログラム全体の目的である。特に現地学生との交流を重視し、教室内外で行動を共にする機会を設けることを特徴としている。そして、たとえ短期であっても留学経験を積むことで、(4)将来のより本格的な留学へ発展させること、あるいは(5)各分野で国際的に活躍できる人材の育成へとつなげることである。</p> <p>浙江大学は本学の協定校であり、中国のトップ大学の一つである。本プログラムの中国語講座では、細かくレベル分けを行い、各人のレベルにあったクラスで学ぶ機会を得る。また浙江大学学生との討論などを通じて交流を深めたり、特別文化講座、中国文化体験活動、バーチャルフィールドワーク等が行われたりした。日程は2021年3月1日（月）から3月11日（木）の約2週間であった。今回の中国語クラスは5班に分けられ、会話をメインにした授業が展開された。中国文化体験活動は書道・切り紙・バーチャルビジット等が行われた。浙江大学学生との討論としては、学生リーダー主導の日中学生交流会が開催され、自己紹介やアイスブレイクを含め3日間開催された。</p> <p>プログラム終了後のフォローアップとして、京都大学の留学生に担当してもらい、オンライン会話教室を10時間行った。</p>

<p>成果の概要 (800 字程度)</p>	<p>本プログラム開催 11 年目の今年は、15 名の京大生が参加し、オンラインプログラムが実施された。</p> <p>本事業の目的と今回の成果を照らし合わせて述べる。</p> <p>1.留学先の文化、社会、習慣に直接触れる 学生からの報告書に、中国文化体験活動で、切り紙に関する動画を視聴後、参加者が一緒にやってみる時間があり、オンライン上で文化を感じることができたとの記述があった。中国の発展に関しては、e コマース向けの大きなマーケットの存在など、早いスピードで発展を遂げていることを初めて知る機会になったとのことだった。</p> <p>2.語学学習意欲を喚起する 学生の報告の中で印象的だったのは、授業後の課題に、学んだことの復習を録音して提出する機会があり、全学生に共有されたので、他の学生の録音を聞いて習熟度を知ることができたという指摘であった。オンライン開催にも多くの可能性があることが示唆されている。</p> <p>3.同年代の学生たちと交流を深める 日中学生交流会では、班に分かれてトピックを選び、ディスカッションを行った。トピックとしては、家族観・語学学習に関することなどがあった。人気だったのは、参加学生にとって身近なキャンパスライフに関することだったとのことである。他には、世界中からプログラムに参加していたため、中国語を母国語としない学生との交流も、中国語学習へのモチベーションになったと報告がある。</p> <p>4.将来のより本格的な留学へ発展させる 1 人の学生は、今回のプログラムで自身の中国語力が十分でないことを痛感し、さらに高階級の語学試験の合格を目指し、中華圏の大学への進学や企業への就職という新しい選択肢に関しても考えるきっかけになったとの報告を寄せている。留学を考えている学生は 15 名中 6 名にもおよび、学生の将来の視野を作ることに於いて成果があったといえる。</p> <p>5.各分野で国際的に活躍できる人材の育成へとつなげる 日本に於いて得ることのできる情報には限りがあることに気付いた学生は、日本と中国の様々な交流活動をより活発に行うことができるように今後の仕事・プライベートに関わりたいと意欲を見せ、特別文化講座で視聴した中国の発展に関心がある学生は、自身もビジネスを起こしたり、就職したりしたいと考えている、とのことだった。</p>
-----------------------------------	---